

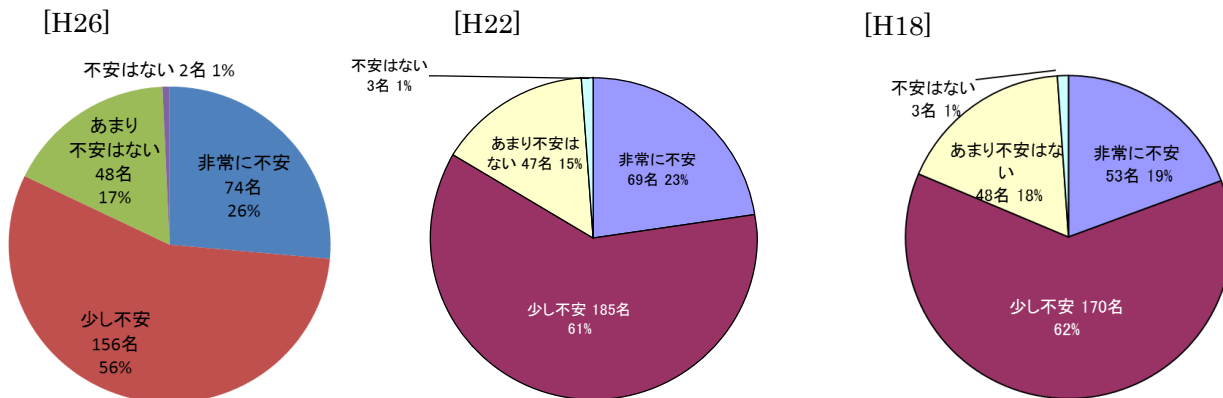
4 食に関する県民意識と外部環境の変化

(1) 食の安全及び食育に対する県民意識(平成26年度県政モニターアンケート調査結果)

ア 食の安全に対する意識

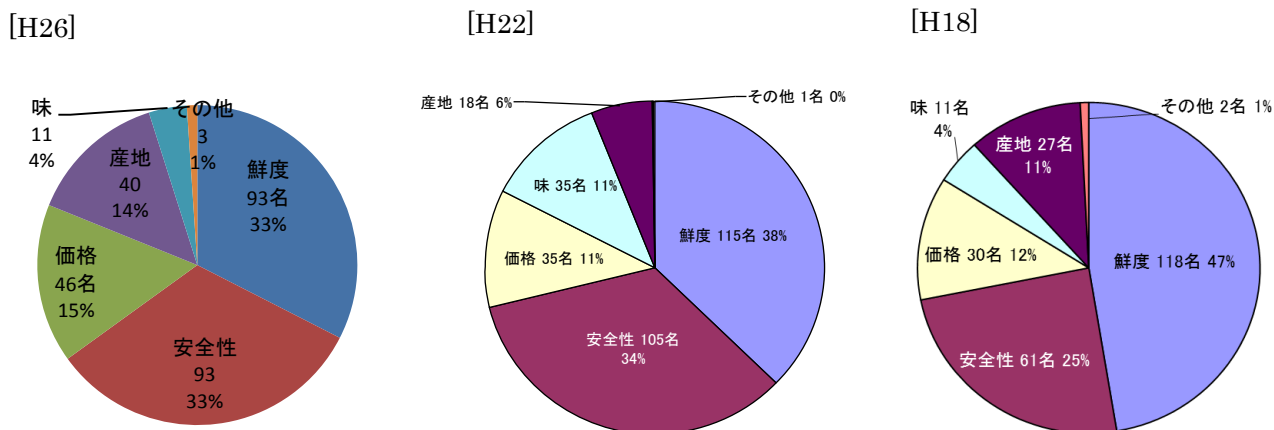
食品の安全性に対する意識

食品の安全性について、「非常に不安」「少し不安」と応えた人は、全体の82%で、平成18年、22年と比較してもほとんど変わらず、高止まりしています。



農産物を購入する際に重視する点

農産物を購入する際、「鮮度」(33%)や「安全性」(33%)を重視している人が、「価格」(15%)を重視する人よりも多い状況です。平成22年と比較すると、「鮮度」が減少し、「価格」を重視している人が微増しています。



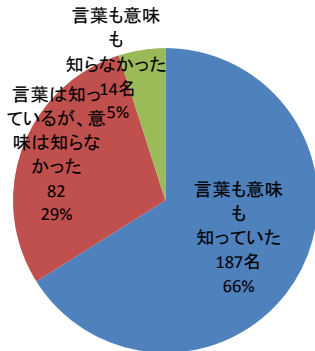
全般の傾向として、食の安全性に対する意識は、平成18年、22年とほぼ同様で、県民が比較的高い不安感を持ちつつ、安全に関わる情報を入手し、これに配慮しながら消費行動をしていることが伺えます。

イ 食育に対する意識

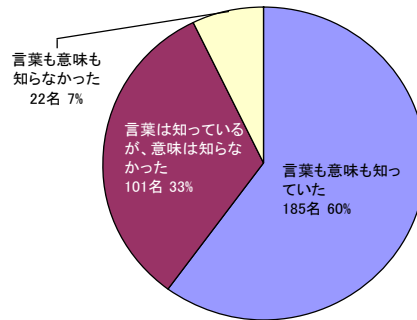
食育の認知度

「食育という言葉を知っている」人は95%と高く、「言葉も意味も知っている」人も6ポイント増加しています。

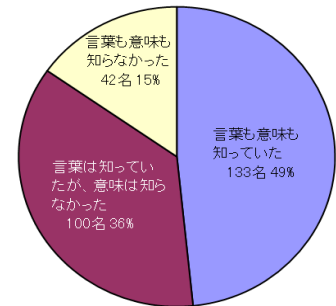
[H26]



[H22]



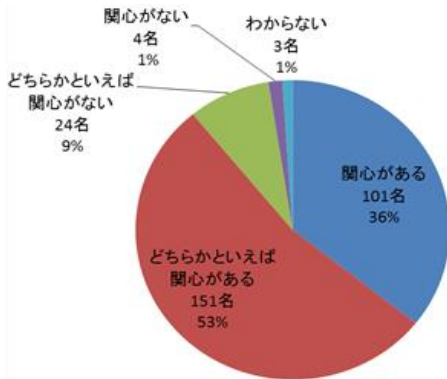
[H18]



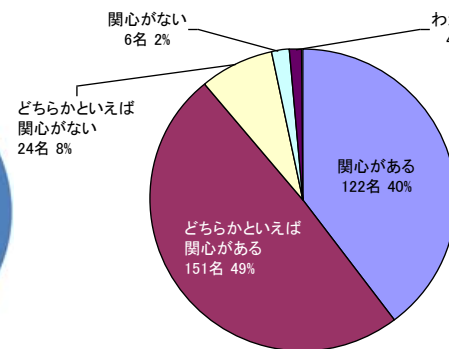
食育への関心度

食育に「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と答えた人は、89%であり、平成18年、22年とほぼ同様です。

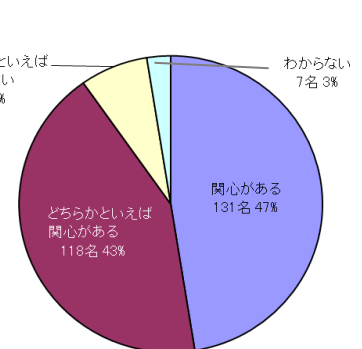
[H26]



[H22]



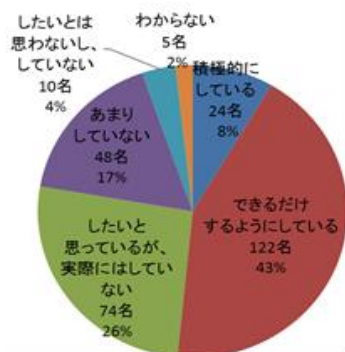
[H18]



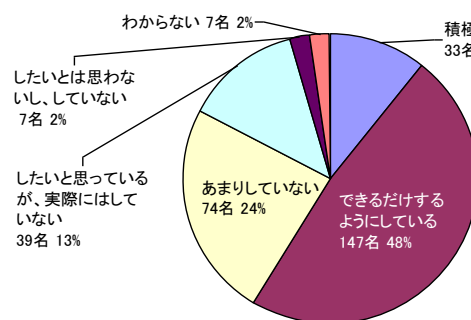
食育活動の実践

食育活動を「積極的にしている」「できるだけするようにしている」人は、51%で、平成18年と同じで、平成22年より8ポイント減少しています。また、「したいと思っているが実際にはしていない」人が13ポイント増え、実践活動に結びついていない結果となっています。

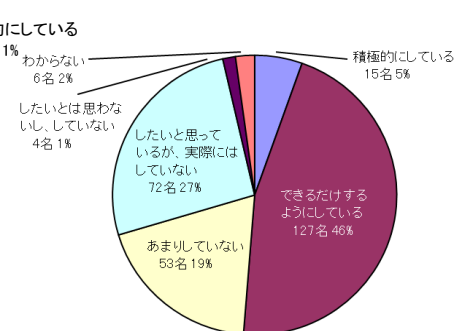
[H26]



[H22]

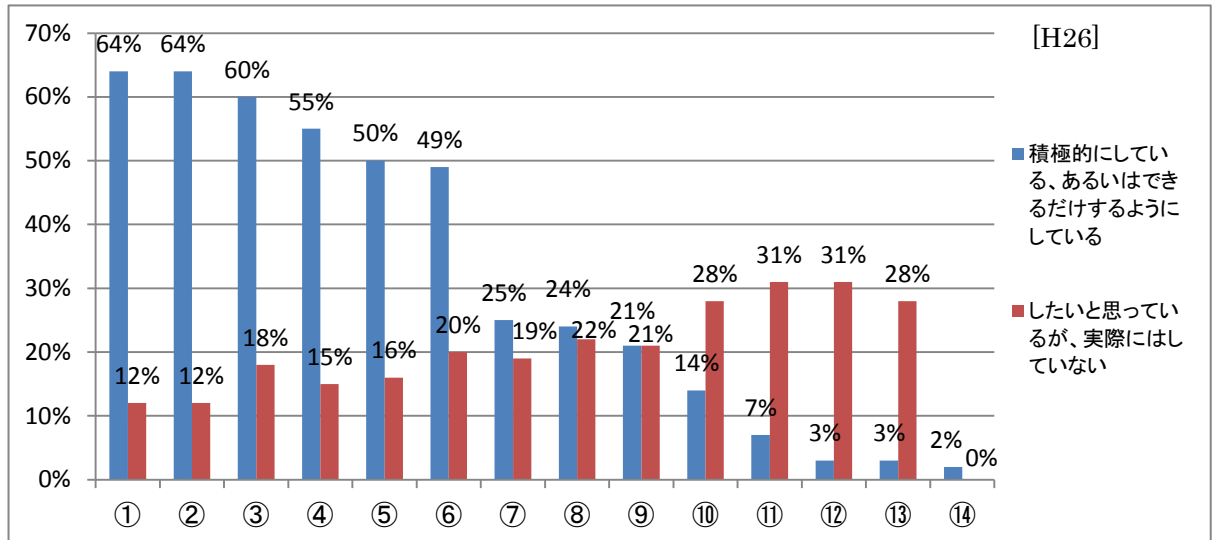


[H18]



食育活動の内容

食育活動の内容については、日常生活の中で比較的簡単にできる食事や食習慣などの活動(①～⑥)は、「積極的にしている、あるいはできるだけするようにしている」が、約半数以上になりますが、それ以外の改めて時間を作って行う活動(⑦～⑭)ではかなり低くなっています。



① 家族で食事をとる	⑧ 郷土食など食文化の継承
② 自分で食品を選んだり、料理を作る	⑨ 食料自給状況に関する理解の向上
③ 栄養バランスのとれた食生活の実践	⑩ 農業生産・加工活動への参加・体験
④ より安全な食品の購入	⑪ 食生活の改善に関する勉強会への参加
⑤ 地元産の積極的な使用	⑫ 食に関する伝統行事への参加
⑥ 自分にとっての望ましい食習慣の理解	⑬ 食に関するボランティア活動への参加
⑦ 食品廃棄物の発生抑制や再生利用に関する理解の向上	⑭ その他

全般の傾向として、食育に対する関心は高く、認知度も向上しています。また、「実践」しようとする気持ちはあっても、実際に行動していない人が増加しています。個人の「実践」の取り組み方法を考える必要があります。